団塊ナビ

読者から

在宅のヘルパーをしています。これからの時期、（室内の）温度・湿度管理はサービス利用者、介護者双方にとってとても重要です。23日掲載「日々熱中」の丹生昂さんの記事を「なるほど」という思いで読みました。

（横須賀市の女性）

読者からのご意見をメールで募集します。100字以内でdankainavi@kanagawa－np.co.jpまで。氏名（ハンドルネーム可）、居住地も記載してください。

人材ドック　代表　須田　万里子さん［52］

働きたい人のそばで

元祖・派遣コーディネーターの就労支援

女性向けセミナー「キャリアバランス塾」で。「自分の中の資源を引っ張り出したり、ほめ言葉をもらったりすることで『気付きスイッチ』が入り、一歩前に踏み出せます」＝フォーラム（横浜市戸塚区）　合同会社人材ドック　http://www.jinzai-dock.com/　キャリアバランス塾についてはhttp://www.career-bj.com/

「お母さんになるのが夢」で大手企業を結婚退職。子どもができるまでと軽い気持ちで人材派遣会社の横浜支社に登録に行ったところ、そこでアルバイトをすることに。26歳の時だ。

1カ月ほどして支社長が「何で売り上げが伸びないのかなぁ」とため息をついた。「派遣スタッフがぞんどん辞めちゃうからですよ」と応じると、「何で辞めるんだろう」。「じゃあ、私が聞いてきますよ」

スタッフの多くは事務系女性。ランチを共にし話を聞くと、派遣だから名札がない、コピー機を使わせてもらえない、仕事を頼まれない…。一緒に泣いたり怒ったり、派遣先に改善を申し入れたり。力になりたくてカウンセリング技術も学んだ。

スタッフは辞めなくなり、売り上げも伸びた。注目した本社が制度としてコーディネーターを全国の支社に設置すると、30歳でその統括者となった。

●●●

バブル景気を背景に派遣業界は急成長、自負をもって仕事に熱中した。だが、派遣スタッフの定着を目的とした豪華なパーティーでこうなじられた。「私たちが求めているのはパーティーなんかじゃない。自分に合った仕事やスキルアップなのよ」

われに返り、目標や適性を重視する働き方を支援するが、会社と折り合わない。退職し、別の人材派遣会社などに勤めた。

景気の下降で「仕方なく派遣」や偽装請負が社会問題化、派遣業への風当たりも強まっていた。だが、「年齢や転職回数などで正社員に採用されにくい人が、能力を生かせる職場に出合うためにも派遣業は必要だ」と、業界の質の向上を目指して49歳で独立。派遣コーディネーター対象のセミナーを核に、研修やカウンセリングを始めた。

●●●

今年から若者や女性への就労支援も行う。「過去の成功体験が通用しないみぞうの不景気ですから、経験者より、先入観のない人材が求められています」。雇う側も、必要な人材や採用方法は企業や時代で異なると知ってほしい。「お互い、うまくいかない理由を探すばかりでなく、なりたい未来に向け、今できることを始めましょうよ」

かつて自身がされたように、相手の長所を見つけ大いにほめる。「人を認める言葉は、人を動かす推進力になります」。最適な企業や仕事と引き合わせたくて、経験・愛情総動員で、働きたい人の可能性を引き出す。

（文・北川原　美乃
写真・浅川　将道）

◇

夢を追い続けたり、ユニークな活動をしている中高年の方の情報を募集中です。はがきに当人の活動内容と連絡先を記し、郵便番号231－8445、神奈川新聞報道部・団塊ナビ係へ。FAX045（227）0150でも受け付けます。